

草津市立
老上中学校
学校だより
R4(2022). 3. 24

動考典

【校訓】

「自主・創造」

文責 竹田 敏彦

《可能性を伸ばすために、限界を作らない》

寒さもようやく和らぎ、春の気配を感じる時節となりました。保護者の皆様におかれましては本校へのご支援、ご協力に心より感謝申し上げます。

さて、今年度を締めくくる最後の月となりました。学校では年度末をしっかりと締めくくり、新たな年度への準備をしているところです。

アメリカ スタンフォード大学の心理学教授のキャロル・ドゥエック氏によると、自分の能力についてどう考えるかで、人は二つのタイプに分かれるそうです。一つは「人間の能力は生まれつきのもので、努力しても限界がある」と考えるタイプで“硬直マインド”といいます。もう一つは「人間の能力は意志と努力の力によって変えられる」と考えるタイプで“しなやかマインド”と呼びます。この二つのマインドを比較してみると、硬直マインドの人は、周りの人に「よく見せたい」、自分の能力を周囲に証明したいと思う傾向があるので「恥をかくから、失敗したくない」と考え、「難しいこと、困難なことはやりたがらない」と行動にブレーキをかけてしまうそうです。一方、しなやかマインドの人は、能力は努力によって伸ばすことができると考え、成長することを目的に努力するので、たとえ失敗してもそれを成長へのチャンスととらえ、新たに挑戦しようとするそうです。

心理学の先生によると、小学生は“しなやかマインド”が多いのですが、中学校1年生の頃から“硬直マインド”が急増するそうです。原因としては、周りの人の影響が大きく左右されます。周りの人から「そんなの無理!」「夢みたくないことを言ってるんじゃない!」という声に対して、自分自身「やっぱりそうかあ、私では無理なんだなあ」と思い込んでしまい、自分で制限をかけてしまうからだそうです。自分の可能性や能力を削ってしまうのか、伸ばしていくのかは自分の考え方によるということです。

この3月から4月にかけて、在校生は進級し、卒業生は新たな進路へと進みます。それは人生にとっても大きな節目にあたり、自分自身を変える大きなチャンスでもあります。考え方ひとつでこれからの人生が大きく変わります。自分の中に根拠のない限界をつくらず、自分の夢や目標に向かって努力をしてほしいと思います。

最後に、保護者及び地域の皆様、今年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止対策として、様々な教育活動や学校行事が十分に実施できず大変残念な一年になってしまいましたが、子どもたちはやり場の

ない悔しい思いを乗り越え、前向きに頑張ることができました。これもまた、皆様の温かいご支援とご協力によるものと感謝申し上げます。誠にありがとうございました。



《R3年度 学校評価アンケート結果》

学校運営協議会（コミュニティスクール）でご意見、改善策等の検討をしました。概要は次のとおりです。（抜粋）ご協力いただいた皆様、ありがとうございました。

評価項目	学校運営協議会でのご意見
組織運営 教育課程 学習指導	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍で種々の制約の中で子どもたちと共に努力してきたことを讃えたい。校長のビジョンの元、計画的に実行されていると思う。ただ、コロナ禍で学校の様子を見る機会が少なく、なかなか年数回の学校運営協議会だけでは判断できないところがある。また、様々な選択の際には「生徒のため」という基本を変えずにいてほしい。 ・オンライン授業も大切だが、行事、日々の学習の在り方など、教室で学ぶ大切さがこのコロナ禍で見えてきた。 ・自主的に目標を立て、環境を整え、学習活動や情報収集の場としてのみだけでなく、純粋に本の好きな子の利用も含め、図書室の活用を務めてほしい。
生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の心に寄り添う声掛けを行い、落ち着いた学校生活につながっている。楽しく学校生活を送っている姿がうかがえる。老中生自身が生徒を守る環境を作っていくことができればと思う。 ・コロナ禍での影響の大きさから不登校も増えるだろうし、内面のストレスなどが鬱積していることが考えられる。早目の対応の必要性を危惧している。 ・薬物乱用防止教室や初発型非行防止に関しては、市少年補導委員との啓発や講座の開催を積極的に進められている。
人権・同和 教育	<ul style="list-style-type: none"> ・相手の立場に立って考えてみる教育をさらに進めてほしい。 ・自主的にアンケートや学習課題を行い、啓発に努める。 ・本校とえば、人権同和教育を中心にあらゆる教育活動に取り組んでいることが当たり前と生徒や保護者に届いている。 ・教職員の人権感覚をさらに磨いてほしい。更なる高みを目指してほしい。
特別支援 教育	<ul style="list-style-type: none"> ・特別支援教育については、個々に状況が違っているので教師の意思疎通を深め、よい学習環境を作ってほしい。特別なものではなく、他の生徒と同じという大前提でとらえてほしい。またそういった視点を大事にしてほしい。さらにそれぞれの個性を認めることで生徒が頑張ることもできるので、教師として、大人として接してほしい。 ・問題点などの評価や調査、アンケートを取り入れ啓発に努めてほしい。
保健・安全 管理	<ul style="list-style-type: none"> ・常識ある行動は、教師を通じて生徒に伝わっていると思う。 ・安全教育では、災害は忘れたころにやってきたり、思いもよらぬ時に起こるものと認識し、そのことを肝に銘じ、多忙な時こそ大切にす。場所を知っていたり、具体的な行動が理解できていたりしていても、非常時に役に立つように、早めに迅速に、基本を積み上げることが大切。 ・想定される課題について細心の注意を払って修学旅行等実施できた。校長のリーダーシップの賜物と思う。
研修	<ul style="list-style-type: none"> ・興味を持ったことにさらに研修を深め、自己管理に努め、目標を立て啓発研修に努めてほしい。 ・このような時だからこそ、違った発想に切り替え、普段ではできないことを何か見つけてみてはどうか。
保護者・ 地域住民 との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニティスクールは保護者の立場からも効果があると思う。 ・教師も休日は地域で生活しているので、家庭はもちろん、地域の人たちとの関係をもっと深めてほしい。 ・コロナ禍で交流・研修が難しいと思うが、地域に向けて学校だより等で発信されている。またそのたよりも学校のビジョンが明確に示されている。 ・学校運営協議会での情報、伝達、啓発もよいと思う。会議の中でのプレゼン等で学校の方向性と現状分析がわかりやすくまとめられていることから、委員の方から意見がよく出てたいへん良いと思う。 ・学校、保護者、地域住民、コロナ禍だからこそ三者の連携は重要で、普段からの積み重ね、理解や協力関係が大切。どうしたい、何をしてほしいかを具体的に伝えてもらい、こうしてほしいと言える関係性を常に思いながら、三者の結束を強固にして緊急時にも慌てない体制を整える必要がある。
業務改善	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ感染の不安の中、感染防止対応に努められている。 ・働き方改革の見直しは、今にも必要であり、さらに改善に努めて行ってほしい。子どもたちが、将来先生になりたいと思われる働き方を作ってほしい。 ・教師を目指したいと子供たちが思えるように、ブラックからホワイトへ変えられるよう、先生方、地域、保護者の意識改革が必要。